



CHICAGO

Travel Trade Guide シカゴ
トラベル・トレード・ガイド



CHICAGO
CHOOSE CHICAGO



シカゴへようこそ

シカゴには、私たちが誇りに思う様々なものがあります。人々の豊かな創造力、大火事からの復興を果たした強い回復力、そして素晴らしいおもてなしの精神などです。

この街には、41kmに及ぶ湖畔の散策路や風光明媚なシカゴ川のリバーウォークなど、気持ちの良い遊歩道がのび、また、街中に点在する美しい公園では、アウトドア・アドベンチャーを体験することができます。

世界的に有名な建築物の見事な美しさを堪能し、多様に富んだ近隣地域のレストランを訪れて世界中のグルメを満喫するのも良いでしょう。60を超える美術館や博物館の見学をはじめ、演劇、ダンス、ライブミュージック、フェスティバルなどの文化体験を楽しむこともできます。一流のアメニティを備えたワールドクラスのホテルで優雅な休日を過ご

すことはもちろん、静かなお気に入りの地区で、自分のペースで滞在することも可能です。

何よりお伝えたいことは、シカゴという街の気さくさ、そして懐の深さです。どんな人も受け入れるこの街の明るく柔軟な空気に触れれば、その居心地の良さを感じていただけることでしょう。2024年のコンデナスト・トラベラー誌の読者投票で、前人未到の8年連続全米ベスト・ビッグシティに選ばれたことは、その証と言えます。

このガイドブックが、シカゴへの旅行計画やご提案のための有益なリソースとインスピレーションとなり、ご送客を促進させるものとなることを願っております。

シカゴのホスピタリティ及び旅行業界を代表して、シカゴへお越しくださることを心よりお待ちしております！

シカゴ観光局

グローバル・デベロップメント
バイス・プレジデント

ナオミ・ハットリ



Contents

- 4 近代建築 Architecture
- 6 音楽&エンターテインメント Music & Entertainment
- 7 美術館、博物館 Art Gallery & Museum
- 8 スポーツ観戦 Sports
- 9 グルメ Gourmet
- 10 イベント&フェスティバル Event & Festival
- 11 モデルコース/アクセス Model Itinerary
- 12 旅の基本情報 Chicago Travel Tips

ダウンタウンからネイバーフッドへ、表情豊かな街角へ

シカゴ市内には、ダウンタウンを中心に77のネイバーフッド（コミュニティ）があり、それぞれに個性豊かな表情に出会える。徒歩で、さらには公共交通機関も駆使して、お好みの街角を見つけよう。

中心エリア

① ループ

長さ約3kmの環状高架鉄道に囲まれた一帯で、シカゴ商品取引所をはじめとする有名建築やレストラン、ギャラリー、ユニークなパブリックアートなどが密集するシカゴのコアエリア。湖畔沿いには、広大な公園「ミレニアム・パーク」が広がっている。シカゴのシンボリック存在である「クラウド・ゲート（“ザ・ビーン”）」や「クラウド・ファウンテン」といった屋外アートをはじめ、ブリツカー・パピリオンなど人気スポットが点在。大人気の「シカゴ美術館」もこのエリアにある。

② マグニフィセント・マイル

シカゴ川の北、ミシガンアベニューに伸びる華やかなショッピングストリート。おしゃれなブティックやレストラン、ホテルなどが林立。

③ ストリータービル（ネイビー・ピア）

ミシガン湖に突き出した棧橋「ネイビー・ピア」は、シカゴぎっけのレクリエーションエリア。人気の遊園地をはじめ、湖の観光船などが楽しめる。夏の火花大会でも有名。

④ サウス・ループ（ミュージアム・キャンパス）

ループの南に広がる一帯で、湖畔の公園の中にフィールド博物館や水族館、プラネタリウムなどが点在する「ミュージアム・キャンパス」が人気。シカゴ・ベアーズ（NFL）とシカゴ・ファイア（MLS）のホームであるソルジャー・フィールドもここにあり。

⑤ ウェスト・ループ

かつて倉庫街だった場所が開発され、ブティックホテルやミシュランレストランなども集まる人気スポットに。

⑥ リバーノース

シカゴ川北側地域で、名建築が多いだけでなくショッピングやナイトライフも充実。

個性あふれるネイバーフッド

⑦ ブリッジポート

シカゴ・ホワイト・ソックスの本拠地。歴史ある教会と、モダンなギャラリーやレストランが共存。

⑧ チャイナタウン

レストランから大小のショップまで、中国系の店や企業が並び、中華ワールド。

⑨ ノーサルテッド（レイクビュー）

このエリア内にあるノーサルテッド一帯は全米最古のゲイコミュニティで、通称「ボーイズタウン」ともいわれる。LGBTQ+パレードが有名で、おしゃれなショップ、レストランも多い。また、近接のレイクビューはシカゴ・カブスのホームタウンとして知られる。

⑩ リンカーン・パーク

動物園のある公園を中心に広がるおしゃれな住宅街。若者に人気のブティックやカフェ、シアターなども多い。

⑪ ハイド・パーク

シカゴ大学や「グリフィン科学産業博物館」があるエリア。フランク・ロイド・ライトの名作ロビー・ハウスもここにある。オバマ元大統領の自宅があったこの地域では、「オバマ・プレジデンシャル・センター」が建設中（2026年完成予定）。

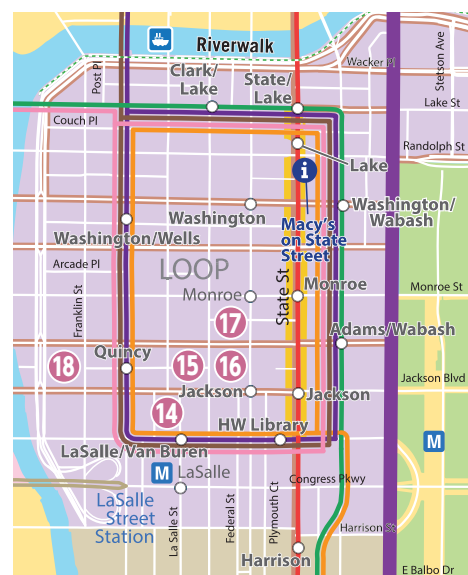
⑫ ペリクセン

アメリカ有数のメキシカン・コミュニティ。鮮やかな壁画のある街並みにレストランなどが並び、とても賑やか。国立メキシコ美術博物館も人気。

⑬ ウィッカーパーク/バックタウン

歴史的な建造物が立ち並び、最先端のブティックやレストランがあつまるトレンドエリア。

ループの主要建築物



- ⑭ シカゴ商品取引所
- ⑰ マーケット・ビル
- ⑮ ルーカリー
- ⑱ ウィリス・タワー
- ⑯ シカゴ連邦センター

エリアの番号は地図内の番号とリンクしています。



Lake Michigan

ミシガン湖

近代建築の摩天楼に息づく シカゴ街づくりの歴史

「摩天楼発祥の地」といわれるシカゴ。1871年、この町で大火が発生し、街のほとんどの約8000ヘクタールが焼土と化した。その後、市は木造建築物を禁止し、石や鉄製品による街の復興を提唱。これに呼応して多くの有能な建築家がシカゴに集まった。「シカゴ派」と呼ばれた彼らが作り上げたのは、鉄骨構造でエレベーターなどの機能を持つ高層建築。以来、それが人口集中が加速するアメリカをはじめ世界の都市建設の主流となっていった。建築文化が息づくシカゴでは、20世紀以降も素晴らしいビルが次々と誕生。「街そのものが建築の博物館」とも賞賛されている。



世界的に有名な高層建築の数々が作り出すシカゴのスカイライン



芸術的なアトリウム

ルーカリー The Rookery

建築家 バーナム&ルート (1888年完成)
フランク・ロイド・ライト
(1907年再設計)

様々な様式が組み合わされたエレガントな建物。赤御影石の外壁、吹き抜けのアトリウムから中2階へのライトコート、12階まで曲がりくねって続くオリエル階段などが美しい。



シカゴ商品取引所 Chicago Board of Trade Building

建築家 ホラバード&ルート
(1930年完成)

シカゴ金融街の中心的存在。重厚感あるアールデコ様式の45階建て高層ビルで、ピラミッド型屋根の最上部には豊穡の女神ケレス像が象徴的に立つ。

ライトアップされた
夜景も美しい

シカゴのデザインを深堀りするツアーも充実! シカゴ建築センター(CAC)

建築デザインについて啓蒙活動を行うNPO組織のビルで、展示スペースではシカゴの建築の歴史から都市計画、名門ビルまで詳しく知ることができる。専門のガイドとともに建築物を巡るウォーキングツアーやクルーズ、バスツアーなども行っている。



ループ周辺

ウィリス・タワー(旧シアーズタワー) Willis Tower (Sears Tower)

建築家 スキッドモア、オウイングス&メリル
(1974年完成)

110階建てで、完成後25年間は高さ世界1を誇った超高層ビルの先駆け。9本のチューブが支え合い、風の荷重に耐える構造のモダニズム様式。103階にある展望台「スカイデッキ」からの景色は圧巻。



ガラス張りのバルコニー「The Ledge」で写真を撮るのが大人気

シカゴ連邦センター Chicago Federal Center

建築家 ミース・ファン・デル・ローエ
(1974年完成)

シンプルでモダンなインターナショナル様式を代表するミースの傑作。ツインタワーと広場のホールで構成され、役所、裁判所、郵便局などが入る。

ビル前にはパブリックアート
アレクサンダー・カルダー作の
「フラミンゴ」も有名



ロビーの美しいモザイクはティファニー作

マーケット・ビル Marquette Building

建築家 ホラバード&ローシェ
(1895年完成)

19世紀後半の好景気に沸くシカゴを象徴するオフィスビルで、「シカゴ派」代表作の19世紀商業様式。ビル名は17世紀にシカゴに最初に入植した宣教師ジャック・マルケットに由来。



フランク・ロイド・ライトの世界に浸るツアー フランク・ロイド・ライト財団

建築の三大巨匠の一人で、日本の帝国ホテルを設計したことで知られるフランク・ロイド・ライト。19世紀後半から20世紀初頭にかけてシカゴで活躍し、周辺の平原風景に共鳴するような、水平線を強調した住宅様式「プレーリー・スタイル」を生み出した。シカゴ郊外にあるライトの自宅「ホーム&スタジオ」や、世界遺産にも登録されている邸宅「ロビー・ハウス」などはツアーで見学可能。日本の影響を強く受けた彼の素晴らしい作品の世界に浸ってみよう。



ホーム&スタジオの外観

ミレニアムパーク周辺

ザ・プリツカー・パビリオン

The Pritzker Pavilion

建築家 フランク・ゲーリー
(2004年完成)

ステンレス製の巨大リボン“ヘッドドレス”で飾られた脱構築主義様式の屋外ステージ。特に春から秋にかけてたくさんのコンサートやフェスティバルが開催される。



上部に張られたフレームはスピーカー機能も持つ

クラウド・ゲート (“ザ・ビーン”)

Cloud Gate (“The Bean”)

作者 アニッシュ・カプーア
(2006年完成)

ミレニアムパークに建つシカゴのランドマーク。鏡のように輝く球面に、摩天楼や公園、観光客など、シカゴの風景を映し出す。常設の屋外アートとしては世界最大級。

液体水銀から着想を得たというデザイン



アクア・タワー Aqua Tower

建築家 ローウェンバーク・アーキテクト、スタジオ・ギャング
(2009年完成)

機能的な高層ビルの周囲を波打つコンクリートのバルコニーで囲み、彫刻のような質感を与えた。エコロジカルなシステムも取り入れられている。コンテンツポラリー様式。



屋上には広大なグリーンガーデンも

875 ノース・ミシガン・アヴェニュー (ジョン・ハンコック・センター)

875N. Michigan Ave (John Hancock Center)

建築家 スキッドモア、
オウイングス&メリル
(1969年完成)

構造体がむき出しになった100階建ての名門超高層ビル。モダニズム様式。94階の展望台「360シカゴ」にある、徐々に傾いていく窓ガラスから街を見下ろすアトラクション「TILT」が人気。



超高層建築の先駆け。展望台のTILTではスリル満点の体験も



内部には観光案内所やギャラリーも

マグニフィセント・マイル周辺

シカゴ・ウォーター・タワー *Chicago Water Tower*

建築家 ウィリアム・W・ポイングトン
(1869年完成)

シカゴ大火で焼け残り、街の復興のシンボルとなった建物。ゴシック・リバイバル様式の、まるで城壁のような重厚な外観が印象的。



市内でもひととき目を引く円形の外観

トリビューン・タワー *Tribune Tower*

建築家 ハウエルズ&フッド
(1925年完成)

世界規模のコンペによって建てられたシカゴ・トリビューン紙の本社ビル。荘厳なゴシック様式で、向かいに建つロマネスク様式のリグレー・ビルと共にマグニフィセント・マイルの象徴的存在。



ここから北に、ブランドショップなどが並ぶマグニフィセント・マイルが伸びる

マリーナ・シティ *Marina City*

建築家 パートランド・ゴールドバーグ・アソシエーツ
(1967年完成)

住居や駐車場、店舗、オフィスなどが入るモダニズム様式の複合施設。中心となる2棟のタワーは世界初の円形ビルで「コーン・コブ (トウモロコシの穂軸)」の愛称で親しまれる。

水面からシカゴの名建築を巡る 迫力のリバークルーズ

シカゴのアトラクションのハイライトともいえるのが、シカゴ川のリバークルーズだ。ダウンタウンを流れるこの川の両岸には、街を代表する名建築の数々が立ち並び、迫りくるような摩天楼を水面から仰ぎ見ることができる。シカゴ建築センター主催のクルーズ「Chicago's First Lady」含め4~5社が70~90分のクルーズを運航しており、知識豊富な専属ガイドが建築や街の歴史をたっぷり語ってくれる。



建築ファンならずとも楽しめる内容

Music & Entertainment

ブルース、ジャズ、そしてあらゆる音楽があふれる街

シカゴは音楽の街でもある。古くはシカゴジャズやシカゴブルース、そして近年ではハウスミュージック発祥の地であり、市内にはジャンルを問わず様々な音楽を楽しめるクラブやバーが集まっている。日が暮れたらお好みの店でくつろぎ、シカゴ流グルーヴを堪能しよう。

ミシシッピ川を北上し、 新たなスタイルに発展した シカゴジャズ

1920年代のシカゴには、禁酒法の下で暗躍するアル・カボネなどのギャングが営むバーが多数あり、演奏の仕事を求め、多くのジャズミュージシャンがニュー・オリンズ方面から流入していた。ルイ・アームストロングなど注目ミュージシャンも活躍する中、スイングをフィーチャーしたシカゴスタイルが発生。これがモダンジャズのベースとなったといわれる。現在も市内には多くのジャズスポットが点在している。

Jazz **アンディーズ・ジャズ・クラブ**
Andy's Jazz Club

Jazz **コンステレーション**
Constellation

Jazz **グリーン・ミル・カクテル・ラウンジ**
Green Mill Cocktail Lounge

Jazz **ジャズ・ショーケース**
Jazz Showcase

Jazz **ウィンターズ・ジャズ・クラブ**
Winter's Jazz Club

伝説的バーで シカゴブルースを

1950年代には、南部から多くのアフリカ系アメリカ人がシカゴに移住し、この地にソウルフルなデルタブルースを持ち込んだ。やがてそれはエレキギターを使った独自のスタイルに進化し、マディ・ウォーターズやバディ・ガイといった伝説的ミュージシャンを生み出した。シカゴには、そんな伝統を感じられるブルースバーも多い。

Blues **ザ・バサメント**
The Basement

Blues **ブルー・シカゴ**
Blue Chicago

Blues **バディー・ガイズ・レジェンズ**
Buddy Guy's Legends

Blues **ハウス・オブ・ブルース**
House of Blues

Blues **キングストン・マイنز**
Kingston Mines

倉庫から生まれた ハウスミュージック

1970年代の後半、シカゴの倉庫跡地「ウエアハウス」を改装したクラブで生まれたのが、ハウスミュージックだ。アンダーグラウンドのDJたちによって開発されたこの音楽は、やがてアメリカ全土、そして世界的な現象へと発展した。

世界が目にする シカゴ交響楽団

1891年設立のシカゴ交響楽団は、全米で3番目に古く、世界最高峰のオーケストラの一つと評価される名門。巨匠リカルト・ムーティが終身名誉音楽監督を務め、2027/28シーズンからはフィンランドのクラウス・マケラが第11代音楽監督に就任することも話題に。ダニエル・バーナム設計のオーケストラホールでのコンサートをぜひ体験したい。



グリーン・ミル・カクテル・ラウンジ



キングストン・マイنز



シカゴ交響楽団

夏は市内各地でミュージック・フェスティバル開催

夏のシカゴは、音楽の都と化す。たとえばミレニアム・パークでは「シカゴ・ブルース・フェスティバル」をはじめ、「シカゴ・ジャズ・フェスティバル」、「シカゴ・ハウスミュージック・フェスティバル」、「シカゴ・ゴスペルミュージック・フェスティバル」、グラント・パークではロックフェスティバルの「ロラパルーザ」といったビッグイベントが目白押し。他にも市内各地で様々なスタイルのフェスティバルが行われ、街中がまさにお祭り騒ぎの華やかさに包まれる。屋外コンサートの多くは無料で楽しむことができる。



フェスティバルで盛り上がるグラント・パーク

美しい劇場で人気ミュージカルを

アメリカの縮図とも言われるシカゴでは、他の街より先にテスト的に新作ミュージカルが上演されることが多い。市内に数多くあるシアターではこうした新しい作品から、ブロードウェイの話題作まで、連日様々なショーが繰り広げられている。特にループにある5つの最高級劇場「ブロードウェイ・イン・シカゴ」は、年間170万人を超える観客が訪れるほど人気。料金的にもニューヨークよりリーズナブルなのもうれしい点だ。



注目作品が上映されるシカゴの劇場街

Art Gallery & Museum

アート、科学、技術、文化… 世界に誇るコレクションが集結

美術館や博物館めぐりは、シカゴ滞在の醍醐味の一つ。市内には、世界レベルの文化施設が多数あり、古代エジプトの墓から水中の世界、印象派の傑作、宇宙の深淵…と、様々なテーマを探究することができる。



ギュスターヴ・カイユボット「パリの通り、雨」

シカゴ美術館 Art Institute of Chicago



ボザール様式の建物自体も美しい

1879年設立と、アメリカで最も古く、最も大規模な美術館のひとつ。30万点以上の作品を所蔵し、とくに印象派とポスト印象派のコレクションが充実。ジョルジュ・スーラの「グランド・ジャット島の日曜日の午後」、カイユボットの「パリの通り、雨」、グラント・ウッドの「アメリカン・ゴシック」をはじめ、モネ、ルノアール、ゴッホ、ピカソ、ゴッホのなどの有名作品に出会える。

グリフィン科学産業博物館 Griffin Museum of Science and Industry

西半球最大の科学技術館で、鉄道・航空・船舶

関係をはじめ、炭鉱、おもちゃとありとあらゆるコーナーがある。ダウタウン南、ジャクソン・パーク内、1893年のシカゴ万博で使われた「パレス・オブ・ファイン・アーツ」の美しい建物を利用している。



一日では回り切れないほど見ごたえがある人気の博物館



シカゴ美術館門外不出の作品、ジョルジュ・スーラ「グランド・ジャット島の日曜日の午後」



シェッド水族館

ミュージアム・キャンパス Museum Campus

ミシガン湖の長大な湖岸とノーザリー島の一角が、複数の文化施設を有する公園になっている。1920年代から計画的に開発されたもので、恐竜、古代エジプト、中国文化など幅広い展示を行う「フィールド博物館」をはじめ、「シェッド水族館」、「アドラー・プラネタリウム」の3施設を含む。



世界最大のT-Rex「スー」の標本が有名なフィールド博物館

シカゴ文化センター Chicago Cultural Center

1897年にシカゴ初の公共図書館として建てられたボザール様式の美しい建物で、シカゴのランドマークにも指定されている。ティファニーのガラス30,000個を使ったステンドグラスドームなど、見事なインテリアを無料で見学することができる。コンサートや美術展などの文化プログラムも頻繁に開催される。



ティファニー作の世界最大のステンドグラスドームは必見

シカゴの見所を効率的に「BIGBUS CHICAGO」

シカゴの観光スポットを効率的に回るには、ビッグバスが便利だ。主要な美術館や博物館をはじめ人気アトラクションに近い11カ所の停留所で自由に乗り降りできる2階建てのオープントップのツアーバスで、シカゴならではの高層ビルのパノラマビューを堪能するのに最適。音声ガイド（英語）ではジャズやブルースも流れ、楽しくシカゴの歴史やランドマークについて知ることができる。貸し切りも可能だ。



24時間～72時間利用など、各種チケットあり

大迫力の人気スポーツを観戦!

スポーツファンならずともぜひ楽しみたいのが、プロスポーツのゲーム観戦だ。シカゴには、アメリカで人気がある7つのスポーツリーグのメジャーチームが揃っている。それぞれのホーム球場やアリーナは、ファンにとってはまさに聖地のような場所。シカゴの人々に交じって熱く盛り上がりよう！ホットドックやナチョスなどの観戦スナックやオリジナルグッズのショッピングもお忘れなく。



シカゴ・カブスのホーム「リグレー・フィールド」

MLB 野球

メジャーリーグ2球団が活躍!

シカゴはメジャーリーグの2つの球団を要する、アメリカでも数少ない都市のひとつ。ノースサイドにシカゴ・カブス、サウスサイドにシカゴ・ホワイト・ソックスのホーム球場があり、いずれもダウンタウンから電車(レッドライン)で乗り換えなしで行くことができる。

シカゴ・カブス

Chicago Cubs

ホーム球場は1914年オープンと、MLBでも2番目の古さ。ツタの生い茂る外野の壁や手動式のスコアボードなどが見られ、アメリカのボールパークの伝統的な雰囲気を堪能できる。球場の舞台裏見学ツアーもおすすめだ(毎日開催)。

ホーム球場: リグレー・フィールド

シーズン: 4~9月

シカゴ・ホワイト・ソックス

Chicago White Sox

試合前に球場駐車場でテールゲーティング(BBQやピクニック)で気分を盛り上げるのが伝統。打ち上げ花火やAC/DCのロック「Thunderstruck」による応援、定番のマレットナイトやエルビス・ナイトなどユーモア精神あふれるテーマナイトがあるのも特徴。

ホーム球場: レイト・フィールド

レギュラーシーズン: 4~9月



シカゴ・ファイアーFC

NFL アメリカンフットボール

シカゴ・ベアーズ Chicago Bears

1920年創設で、現在2チームのみ残るNFLオリジナルチームのひとつ。9度のNFLチャンピオンに輝き、1985年にはスーパーボウルも制覇。当初シカゴにはMLBのカブス(小熊)があり、それよりも大きいという理由でベアーズ(熊)の名が付けられた。熱狂的なファンを持ち、チームがタッチダウンを決めると大観衆がテーマソングを熱唱する。

ホームスタジアム: ソルジャー・フィールド

レギュラーシーズン: 9~1月

NBA バasketボール

シカゴ・ブルズ Chicago Bulls

かつてマイケル・ジョーダンが所属し、1990年代には6回のファイナル優勝を果たした名門チーム。ホームアリーナにあるマイケル・ジョーダンの銅像前はセルフスポットとして人気。

ホームアリーナ: ユナイテッド・センター

レギュラーシーズン: 10~4月

WNBA 女子Basketボール

シカゴ・スカイ Chicago Sky

サウス・ループを本拠地とするシカゴ・スカイは2006年設立。2021年にはWNBAチャンピオンになったことも。ホームゲームで見られるアクロバットチームやトランポリンチームによるエネルギッシュなパフォーマンスも必見。

ホームアリーナ: ウィンドラスト・アリーナ

レギュラーシーズン: 5~9月

NHL アイスホッケー

シカゴ・ブラックホークス Chicago Blackhawks

世界のトップ選手が集まる北米ホッケーリーグの「オリジナルシックス」と呼ばれる老舗6チームのひとつ。1926年の創設以来、優勝杯「スタンレーカップ」を6回獲得している。ブラックホークスが得点する度に、ゴールソングに合わせてワイルドに踊るマスコット「トミー・ホーク」もお見逃しなく。

ホームアリーナ: ユナイテッド・センター

レギュラーシーズン: 10月~4月

MLS サッカー

シカゴ・ファイアーFC Chicago Fire FC

チーム名は、1871年のシカゴ大火にちなんだもの。初年度にMLSカップと全米オープンカップを制し、2000年、2003年、2006年にも全米オープンカップを制した強豪。ファンが熱狂的なことでも知られ、サポーター専用席では、90分間立ちっぱなし、歌いっぱなしという熱い応援が繰り広げられる。

ホームスタジアム: ソルジャー・フィールド

レギュラーシーズン: 2~10月

NWSL 女子サッカー

シカゴ・レッド・スターズ Chicago Red Stars

近年盛り上がりを見せている全米女子サッカーリーグの中でも活躍が目覚ましいシカゴ・レッド・スターズ。2024年にはシカゴ・カブスの本拠地リグレーフィールドで史上初の公式戦を行ない、リーグ史上最高の3万5000人を動員するほど人気のチーム。

ホームスタジアム: シートギーク・スタジアム

レギュラーシーズン: 3~10月

街滞在を楽しみながら
アウトドアスポーツを

自分でもスポーツを楽しみたいという方には、まずカヤックやSUPがおすすめだ。ミシガン湖やシカゴ川など穏やかな水面でパドリングができるガイド付きのツアーがあり、初心者でも体験可能。より気軽に楽しむなら、ミシガン湖畔や公園の遊歩道でのサイクリングやウォーキングを。またゴルフも人気で、街の周辺には美しいコースが点在している。



Gourmet

ここでしか味わえない 名物料理がいっぱい！

シカゴは、アメリカ屈指のグルメタウンとしても高い評価を得ている。19世紀に押し寄せた移民により多様な食文化が持ち込まれ、独特のダイニングシーンが出来上がった。カジュアルな名物料理や伝統的な味わいはもちろん、最先端の創作料理やミシュランのように世界的に評価されるレベルまで、様々なおいしさを堪能しよう。

シカゴ・スタイル・ホットドッグ

Chicago-Style Hot Dog

ケシ粒のパンズにビーフソーセージを挟み、その上にイエローマスタード、タマネギ、レリッシュ、ディルのピクルス、トマト、ピーマンを載せ、セロリソルトをひと振り。ケチャップはNG。これが世界的に有名なシカゴのホットドッグだ。



Northman Beer & Cider Garden

イタリアン・ビーフ・サンドウィッチ

Italian Beef Sandwich



19世紀初頭にイタリア系移民が安い牛肉を使って考案したといわれる、シカゴの名物サンドイッチ。煮込まれた薄切り牛肉をパンで挟み、グレービーソースをかけたもの。汁気たっぷりでボリューム満点のサンドイッチは絶品。豪快にかぶりつこう。

シカゴステーキ

Chicago Steak

かつてアメリカ随一の牛肉産地でもあったシカゴは、ステーキハウスの数と種類でも全米トップクラス。Tボーン、リブアイなどの定番メニューを揃えた伝統的な店をはじめ、調理法やソースに工夫を凝らしたモダンな店まで、お好み次第。



ポップコーン

Popcorn

シカゴのおやつといえば、ポップコーン。特に日本でも人気のギャレットポップコーンは、キャラメル味とチェダーチーズ味をはじめ、カラフルで様々な味が楽しめる名物的存在。市内の随所にショップがあり、甘い香りを漂わせている。



ディープ・ディッシュ・ピザ

Deep Dish Pizza

Lou Malnati's Pizzeria

シカゴでピザといったらこれ。名前の通り、深さのあるパイ生地が、たっぷりのモッツアレラチーズと具材を包みこんだ食べ応えのある逸品。ピリ辛のトマトソースのトッピングも特徴的だ。調理に時間がかかるので、時間に余裕をもって行くのがおすすめ。

シカゴの味を満喫できる フードフェスティバル

食関係のフェスティバルが頻繁に行われるシカゴ。中でも見逃せないのが、9月にグランドパークで行われる「テイスト・オブ・シカゴ」だ。人気のレストランがそれぞれポップアップストアを出し、自慢の料理を提供。無料コンサートも行われる華やかなイベントだ。



屋内、屋外で様々なフードイベントを開催

ネイバーフッドで世界の料理を



シカゴで世界の味覚を体験

シカゴには77の個性的なコミュニティ「ネイバーフッド」がある。チャイナタウン、リトルイタリアをはじめ、メキシコ系住民の多いピルゼン、プエルトリカンが集まるフンボルトパークなど、様々な国の文化を色濃く伝えるエリアも多い。各国の本格的料理を出すレストランも充実しているので、散歩がてら、世界の料理巡り体験をするのも面白い。

自転車に乗って名物料理を巡る人気ツアー Bobby's Bike Hike - Chicago

名物料理やおいしい店を効率的に巡るには、ガイド付きのフードツアーに参加するのもおすすめだ。最近特に人気が高いのが、サイクリングとグルメ巡りを融合させたフードツアー。自転車で街を走り抜け、ピザやホットドッグ、クラフトビールなど、シカゴの味わいを堪能できる。



一年中エキサイティングな催しが目白押し!

シカゴの人たちは季節ごとのイベントを楽しむのが大好き。春のリバー・ダイング、夏の音楽フェスティバル、秋の建築イベント、そして冬のホリデイパレードなど、訪れる季節ごとに新しい発見があるはず。

(スケジュールはシカゴ観光局公式サイトで確認 www.choosechicago.com)

時期	イベント名	概要
春	3月17日の前の週末 シカゴ・リバー・ダイング (セント・パトリック・デー・イン・シカゴ) <i>Chicago River Dyeing (St. Patrick's Day in Chicago)</i>	聖パトリックの命日(3月17日)を盛大に祝うシカゴ。中でもシカゴ川を緑色に染める「リバーダイング」はシカゴの名物イベント。午後の「シカゴ・セント・パトリック・デー・パレード」も全米で有数の規模を誇るスケール。
	4月中旬 エキスポ・シカゴ <i>Expo Chicago</i>	コンテンポラリー・アートとモダン・アートの国際博覧会で、世界中のギャラリーやアーティストがネイビー・ピアに集結する。
	5月または6月 シカゴ・ゴスペル・ミュージック・フェスティバル <i>Chicago Gospel Music Festival</i>	ミレニアム・パークのブリツカー・パビリオンに様々なゴスペルグループが登場。入場無料。
夏	5月下旬～8月 ネイビー・ピア・ファイアーワークス <i>Navy Pier Fireworks</i>	毎週土曜日22:00と水曜日21:00にネイビー・ピアで開催される音楽と花火のショー。無料。
	6月上旬 シカゴ・ブルース・フェスティバル <i>Chicago Blues Festival</i>	ミレニアム・パークにブルース界の大家が集結する、世界的に有名な野外音楽フェスティバル。
	6月下旬 シカゴ・プライド・フェスト&パレード <i>Chicago Pride Fest & Parade</i>	LGBTQ+のコミュニティと文化を祝う祭典。全米最古のゲイタウンといわれるノーサルステッドで開催。
	7月上旬 NASCARシカゴ・ストリート・レース・ウィークエンド <i>NASCAR Chicago Street Race Weekend</i>	アメリカ最大のモータースポーツ団体NASCARによる自動車レース。ダウンタウンに特設されたロードコースが舞台。
	7月中旬 チョーズン・フュー・ピクニック&フェスティバル <i>Chosen Few Picnic & Festival</i>	ジャクソン・パークに数千人のファンが集まる、ハウス・ミュージックのイベント。
	7月中旬 ウインディ・シティ・スモークアウト <i>Windy City Smokeout</i>	ユナイテッド・センターの外で開催される、カントリーミュージックイベント。中西部の人気BBQショップや地ビールが集まる人気の夏フェス。
	7月～8月 ミレニアムパーク・サマー・ミュージック・シリーズ <i>Millennium Park Summer Music Series</i>	ミレニアムパークのジェイ・ブリツカー・パビリオンで開催される、無料の野外コンサート。幅広いジャンルのミュージシャンのライブを楽しめる。
	7月～9月 サンデーズ・オン・ステート <i>Sundays on State</i>	特定の日曜日、ループ内のステート・ストリートが巨大パーティー会場に。フード&ドリンク、ショップなどが楽しめる。
	7月～9月 サマーダンス <i>SummerDance</i>	市内の多くの公園で、プロのダンスインストラクターの無料レッスンを実施。家族で楽しめる。
	8月上旬 ロラパルーザ <i>Lollapalooza</i>	世界的に有名なロックフェスティバル。グラント・パークのステージにトップアーティストが出演する。
8月上旬 シカゴ・エア&ウォーター・ショー <i>Chicago Air & Water Show</i>	ミシガン湖で行われる航空ショー。アメリカの空・海・陸軍の様々な機体や船体をはじめ、曲技飛行などが見られる。	
秋	9月上旬 シカゴ・ジャズ・フェスティバル <i>Chicago Jazz Festival</i>	レイパーデー(9月第1月曜)直前の週末にミレニアムパークで開催される、シカゴ最古の無料屋外ライブ。ジャズの巨匠たちによる最高のパフォーマンスを湖畔で堪能。
	9月下旬 シカゴ・グルメ <i>Chicago Gourmet</i>	ミレニアム・パークで行われるフードイベント。料理のテイस्टイングやクッキングデモ、シェフのコンテストなど。
	10月中旬 バンク・オブ・アメリカ・シカゴ・マラソン <i>Bank of America Chicago Marathon</i>	世界で最も権威のあるマラソン大会のひとつ。世界中から集まったアスリートたちが、シカゴの29の地域を駆け抜ける。
	10月中旬 オープン・ハウス・シカゴ <i>Open House Chicago</i>	通常みることのできない歴史的・文化的に貴重なビルや建物を年に一度だけ公開。建築の街シカゴならではの人気の建築イベント。
	10月中旬 アーツ・イン・ザ・ダーク <i>Arts in the Dark</i>	ハロウィーンを“アーティストの休日”と捉えて幻想的に祝うアートイベント。独創的なフロートやパフォーマンスのパレードで、夜のステートストリートが華やか。
	10月後半 ナイト・オブ・1,000・ジャックオーランタンズ <i>Night of 1,000 Jack-O'-Lanterns</i>	シカゴ植物園に何百人もの芸術家で作ったカボチャの彫刻を展示。彫刻の実演やお菓子を楽しむハロウィーンイベント。
	11月下旬 ウイントラスト・マグニフィセント・マイル・ライツ・フェスティバル <i>The Wintrust Magnificent Mile Lights Festival</i>	シカゴのホリデーシーズン到来を告げる伝統的祭典。ミシガン通りの200本以上の木々が100万球のイルミネーションで彩られる。目玉となる夜のパレードは米国最大。
冬	11月～12月 クリストキンドルマーケット <i>Christkindlmarket</i>	ドイツの伝統的なクリスマスマーケットを再現。ダレイ・プラザの広場にギフトショップやフード関連の屋外屋台が並ぶ。
	11月～1月 ズーライツ <i>Zoolights</i>	リンカーン公園の動物園が、200万個以上のライトによるホリディディスプレイで華やかに輝く。
	1月～2月 シカゴ・レストラン・ウィーク <i>Chicago Restaurant Week</i>	市内数百のレストランがそれぞれに特別なプリフィクスメニューを提供。人気の味をお得な料金で楽しめる。
	2月中旬 シカゴ・シアター・ウィーク <i>Chicago Theatre Week</i>	ミュージカルから演劇まで、シカゴの劇場で上演される100以上の演目が超低価格で見られるイベント。
2月中旬 シカゴ・オート・ショー <i>Chicago Auto Show</i>	全米最大の自動車ショー。マコミック・プレイスで、新車やコンセプトカーをはじめ、様々な展示が見られる。	



セント・パトリック・デーにはシカゴ川がグリーンに!



ネイビー・ピア・ファイアーワークス



ミレニアム・パークではミュージック・フェスティバルをはじめ様々なイベントを開催



シカゴ・プライド・フェスト&パレード



有名なビルの内部見学ができるオープン・ハウス・シカゴ



アーツ・イン・ザ・ダーク



ウイントラスト・マグニフィセント・マイル・ライツ・フェスティバル

シカゴを楽しむモデルコース 2泊3日

Day 1 ループ周辺散策

まずはシカゴの中心地である「ループ」エリアから散策開始。主要な観光スポットが集まっており、歩いて回ることができます。

午前	街のランドマークでもある「シカゴ文化センター」でティファニーのステンドグラスドームなどを見学。その後「シカゴ美術館」で印象派などの有名作品を鑑賞。シカゴ美術館に入る前に、正面入口のはす向かいにある「ルート66の看板」（黄金時代に中西部と西海岸を繋いだ歴史的道路のスタート地点）で記念撮影を忘れずに。次は「ミレニウムパーク」を散策。今世紀で最も成功したと言われる公共公園には「クラウド・ゲート（“ザ・ピーン”）」、「クラウン・ファウンテン」、「ジェイ・プリツカー・パビリオン」などシカゴのアイコン的観光スポットが集まり見どころ満載。
午後	「ミレニウムパーク」散策後はシカゴリバーへ。川沿いの遊歩道「リバーウォーク」でランチタイム。ランチ後はリバー・クルーズ（建築ツアー）で水上から摩天楼の街を堪能。所要時間70～90分。水上は冷えるので羽織るものを持参するのがおすすめ。次は「ウィリス・タワー（旧シアーズ・タワー）」へ行き、一気に地上412mへ。103階のスカイデッキにあるガラス張りの「The Ledge」で絶景体験。
夜	日が落ちてきたら、ブロードウェイ・イン・シカゴ、シカゴ交響楽団、シカゴ・リリック・オペラ、ジョフリー・バレエ団など、初日の締めくくりは華やかな劇場鑑賞体験で。



クラウン・ファウンテン



リバークルーズ

Day 2 ループの外へ

2日目はシカゴ中心地より北側や湖のあるエリアを満喫。

午前	2日目は高級商業地区であるマグニフィセント・マイルにある「ジョン・ハンコック・センター」からスタート。94階の展望台から眺めるミシガン湖は圧巻。スリリングなアトラクション「TILT」も人気。その後ミシガン通り沿いを南下しながら散策。マグニフィセント・マイルには、高級ブランドやレストランが軒を連ねる。シカゴ大火を逃れた「ウォータータワー」、世界最大のスターバックスコーヒー、「トリビューンタワー」、「リグレービルディング」など必見の建築物も集まっている。
午後	シカゴリバーに着いたらミシガン湖に面する栈橋「ネイビー・ピア」へ。「フライオーバー」、観覧車、ランチやプランクルーズもおすすめ。
夜	2日目の夜は、The Salt Shed、The Second City、Blue Man Groupなど、「シカゴアン」（シカゴ市民）が楽しむショーや屋外ライブを体験してみよう。「セカンド・シティ」はシカゴの老舗コメディ劇場で、多くの有名コメディアンや俳優を輩出している。



ネイビー・ピア

Day 3 ネイバーフッドへ

少し足を延ばして、シカゴの多様な表情が見られるネイバーフッドを散策。建築の巨匠フランク・ロイド・ライトが残した遺産の見学も。

午前	車で南へ30分ほど移動してハイド・パークへ。名門シカゴ大学のキャンパス内にあるロビーハウス（フランク・ロイド・ライト作、世界遺産）や、グリフィン科学産業博物館などを見学。
午後	ランチには、15分ほど車でダウンタウン方面に戻り、メキシカン文化が息づくピルゼンやチャイナタウンなどのネイバーフッドで、豊かな文化を体験するのもおすすめ。
夜	最後は有名な「Buddy Guy's Legends（ブルース）」、「Kingston Mines（ブルース）」、「Green Mill（ジャズ）」など、シカゴならではのライブエンターテインメントで締めくくろう。



ロビーハウス

Access

日本からシカゴへ

東京/シカゴ間は、複数の航空会社が直行便を運航。フライト所要時間は往路が約12時間、復路が約13時間。そのほか日本の主要都市から北米の都市経由でシカゴにアクセスするルートも多い。日本便をはじめほとんどの国際線は、オヘア国際空港での発着となる。そのほか、一部航空会社が利用するシカゴ・ミッドウェイ空港もある。



4つのターミナルがあるオヘア国際空港

空港から市内へ

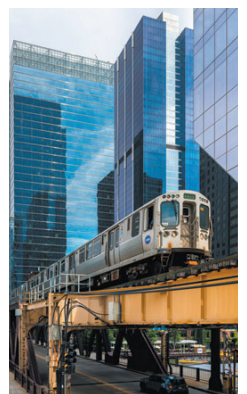
CTAブルーライン

シカゴ交通局CTA(Chicago Transit Authority)が市内とオヘア国際空港を結ぶ鉄道路線ブルーラインを24時間運行。ダウンタウンまでの所要時間は約45分。ブルーラインはCTAの多くの路線やバスルートにも接続可能で便利。また、ミッドウェイ空港からはオレンジラインの利用を。ダウンタウンまでは約45分。

この他、予約制のGo Airport Express、ホテルなどのシャトルバス、タクシーなどの利用も便利。タクシーはダウンタウンまでおよそ\$50。目的地まで相乗りできるサービスもある。

市内交通

自由に市内観光を楽しむには、通称“L”と呼ばれるCTAの鉄道やバスの利用が便利。ダウンタウンをぐるりと回る「ループ」を中心に周辺35のネイバーフッドにアクセスできる。乗車には鉄道駅でVentra Card（プリペイドカード）の購入を。



中心エリアを巡るL



位置

アメリカ中西部、イリノイ州、ミシガン湖の南西部に面して広がる国際都市。

人口

約270万人。ニューヨーク、ロサンゼルスに次いでアメリカ3番目の大都市。アフリカン・アメリカン、ヒスパニック系をはじめ多様な人種構成。

ニックネーム

シカゴはニックネームが多い街。「Windy City (風の吹く街)」、「Second City」、「Chi-Town」、「City in a Garden」、「Heart of America」など多彩。

主要産業

古くから交通の要所として栄え、現在も金融、鉄道、航空の重要拠点となっている。家電、工業機械、冷凍食品などの産業で全米トップクラス。

気候

春：日々暖かくなり、5月には20°Cを超えることも。街中に花が溢れる美しい季節。

夏：平均気温は26°C~33°C。鮮やかな緑の中、連日屋外のフェスティバルやイベントが行われる。レストランのパティオも大人気に。6月は夏の始まりで、さわやかな散策に絶好の季節。

秋：気温が下がり始め、街中の木々が美しく色づく。冬に近づくにつれ7°Cくらいまで冷えることも。

冬：平均気温は-1°C~3°Cで雪も降る。ホリデーシーズンのイルミネーションが輝き、幻想的な美しさに。

時差・タイムゾーン

日本との時差は-15時間。サマータイム期間は-14時間。アメリカのセントラル・スタンダード・タイム (CST) に属す。

年齢制限

レンタカーが借りられるのは21歳以上(25歳未満は追加料金必要)。アルコール、ギャンブル、たばこ購入が許可されているのは21歳以上で、購入には写真つきIDの提示が求められる。

喫煙

密閉された公共の場所、およびこれらの施設の入り口から約4.5メートル以内では喫煙、電子タバコなどの使用禁止。

税金

シカゴ市内では、10.25%のセールス税、17.4%の宿泊税が課される。

電気

電圧は120ボルト、周波数は60ヘルツ。日本の電圧は100ボルトだが、PCやスマホをはじめシェーバーなど一般的な日本の電気製品は世界対応 (INPUT: 100V - 240V 50/60Hzの表示あり) となっているので、変圧器を使わずにそのまま利用が可能。精密機器については確認を。プラグは3つ穴のあるBタイプだが、日本のAタイプにも対応。ただしコンセントの左右が決まっているので注意。

チップ

タクシードライバー、バーテンダー、ウェイターには料金の20~25%、ホテルドアマンやバレットパーキング、客室係には\$2のチップが一般的。

CHICAGO
CHOOSE CHICAGO

お問い合わせ (旅行業界向け)

シカゴ観光局 Email: emorimoto@choosechicago.com (一般からのお問い合わせは受け付けておりません)



シカゴ観光局
Choosechicago.com

